

序

当研究所では、平成13年度も教育論文の刊行を企画して原稿を募集しましたところ「論説の部」に8編、「実践記録の部」に7編の積極的な応募をいただきました。

「論説の部」では、まず、「不登校」「いじめ」など、現代の学校教育が抱える問題点を解決するためには、東洋の伝統思想を見直し、これから学ぶこと、教師の生徒に対する感化を最大限に利用すること、との二つの提言をいただきました。また、いじめの特徴を国際比較することにより、日本のいじめの特徴を再考し、いじめ問題解決への提言をいただきました。さらに、本市の6人の外国語指導助手（ALT）がそれぞれの立場から本市の英語教育についての感想、あるいは提言等について述べております。関係者に是非ご一読いただき、更に議論を深めていただけたら幸いです。

「実践記録の部」につきましては、学校関係者から、校長先生による学校集会等の講話と学校だよりの1年間のまとめ、ポルトガル語圏の外国人児童生徒への日本語指導の実践、外国人児童生徒に対する日本語教室における実践、通常学級とことばの教室との連携を通しての場面緘黙児に対する支援の実践、生徒が生徒の悩みを聞いて互いに支え合う「ピア・カウンセリング」の実践、数学における習熟度別学習の実践、校内LANとインターネット活用実践が紹介されています。いずれも今日的な教育課題に真剣に取り組まれた力作であります。

以上、多くの教育関係者から日頃の教育的思索や研究実践を發表していただきました。これらの論文は、読者の皆さんの教育観を深める大きな契機となるに違いありません。したがって、ここに示された貴重な教育論文を、今後とも各教育現場における日々の実践に十分生かされることを期待いたします。

なお、教育論文集第1集から昨年度までに掲載された論文のテーマ及び執筆者一覧は研究所のホームページの学習資料に掲載しましたので、今後の研究の一助としてご活用いただけたら幸いです。

おわりに、論文をお寄せくださった研究者をはじめ、関係各位にお礼を申し上げますとともに、皆様のますますのご活躍を祈念して序といたします。

平成14年3月

足利市立教育研究所長

會 澤 政 宏